

平成 27 年度第 2 回技術委員会議事録

会議名	金属・セラミックス技術委員会	主催者：電気学会
日時	平成 27 年 7 月 22 日(水)15:00～17:00	場所：(社)電気倶楽部 C 会議室
出席者	吉川(横国大)、木村(古河)、岩城(日立)、窪谷(東芝)、伴野(NIMS) 【敬称略】	

【配布資料】

- 1) 270722-1 前回 (H27/4/23) 議事録 (案)
- 2) 270722-2 電気学会 金属・セラミックス技術委員会 名簿
- 3) 270722-3 平成 27 年度 金属・セラミックス技術委員会分掌
- 4) 270722-4 電子メール「超電導機器研究会」
- 5) 270722-5 電子メール「H27 年基礎・材料・共通部門大会 YPC 審査員のご依頼」
- 6) 270722-6 電子メール「A 部門大会における技術委員会活動紹介ポスターご作成のお願い」
- 7) 270722-7 電子メール「特集号の提案結果につきまして」
- 8) 270722-8 研究会活動に関する補助金について
- 9) 270722-9 平成 27 年度 金属・セラミックス技術委員会活動計画

【議事】

1. 前回議事録の確認

- ・ 資料 270722-1 に基づき前回議事録の確認を行い承認された。

2. 名簿の確認

- ・ 資料 270722-2 に基づき名簿が確認された。日高氏の内諾は取れている。

3. 役割分担の確認

- ・ 資料 270722-3 に基づき各委員の役割分担について確認された。

4. 研究会の共同開催について

- ・ 資料 270722-4 にある通り、9/2 に B 部門（超電導機器技術委員会）と共同で開催する計画であった研究会は、諸般の事情により中止となった。代わりに、9/2 午前に、低温工学・超電導学会の九州・西日本支部協賛で、無料講演会（電気学会技術委員会主催）が開催されることとなった。
- ・ 上記の研究会は中止となったが、B 部門とのタイアップとして何ができるかを相談するため、とりあえず吉川委員長が赴く予定である。
- ・ 研究会は学生が中心の方が集まりやすいとの意見が出された。学生の育成にもなる。
- ・ 下山委員がご担当されている若手研究会に、共同開催として B 部門関係者を呼ぶことも考えられる。

5. H27 年 A 部門大会ポスターセッション審査委員の選出について

- ・ 吉川委員長より資料 270722-5 に基づき説明された。金セラ技術委員会で担当する分野は、⑧金属・セラミックス、⑨半導体・機能・超電導材料である。
- ・ 窪谷委員から A 部門大会のセッション編成が終わっている旨、報告があった。今回は件数が多く、

オーラル 20 件程度であった。技術委員の勧誘には都合がよい。窪谷委員より吉川委員長へ参加者リストを送る。

6. H27 年 A 部門大会におけるポスターの作成について

- ・ 吉川委員長より資料 270722-6 に基づき報告があった。

7. 特集号の企画について

- ・ 吉川委員長より資料 270722-7 に基づき説明があった。
- ・ 窪谷委員より、招待であってもレビュー論文では原稿料を支払わなくてはならない旨、説明があった。ただし業績として招待論文としてカウントできる。A 部門論文誌は IF が付かず、共通英文誌は付く。
- ・ 掲載号について、窪谷委員より他の委員会との兼ね合いで 2016 年 11 月号となった旨報告があったが、技術委員会後、メールにて 12 月号であったと訂正があった。この場合、会告期限は 2015 年 11 月末(13 ヶ月前)、投稿期限は 2016 年 2 月末(10 ヶ月前)となる。
- ・ 件数としては 7~8 件程度、そのうち招待のレビュー論文は、3 分野程度で提案することとする。

8. 研究活動に関する補助金について

- ・ 吉川委員長より資料 270722-8 に基づき説明があった。金セラ技術委員会は、最低補助額である 1 万円を受けることができるが、木村幹事補佐より例年処理が面倒であったため、申請していなかった旨、補足があった。
- ・ ただし必要ならば、若手研究会に渡すことも考える。

9. 平成 27 年度活動計画

- ・ 資料 270722-9 に基づき議論された。
- ・ 金セラ技術委員会を、10 月にも開催することが確認された（年 4 回開催）。
- ・ 吉川委員長より、新規調査委員会の立ち上げに向けて、九大の木須先生と面談した旨報告があった。超伝導材料の評価技術に関する内容でお引き受けいただける旨報告があった。これから木須先生と相談しながら企画案を作成していく。
- ・ 全国大会シンポジウム（2016.3.20：名古屋大）に関して、超伝導ケーブルに関する内容で企画することとなった。B 部門とのタイアップを検討する。想定される発表機関は、古河電工、住電、フジクラ、中部大、鉄道総研、ISTEC など。下山委員に企画案の作成をお願いしたい。岩城委員が取り纏める。

10. その他

- ・ 次々回 1 月の金セラ技術委員会は、古河日光発電株式会社の見学会を含めて、日光にて開催する方向で検討する。次回 10 月の技術委員会の際に、日程を固める。古河日光発電株式会社の見学会は、低温工学誌等を通じて希望者の募集をかける。